

平成24年度市内研修「長滝白山神社五月祭」

平成24年度の市内研修は、5月5日に白山長滝神社の5月祭、通称「デデデン祭」を見学した。参加者は23名、山吹咲くこどもの日、五月晴れの日を郷土の民俗無形文化財を研修し、楽しんだ。

『白鳥町史下巻』によれば、「慶安元年(1648)3月、修正延年並祭礼次第によれば、5月5日には正月6日と同じく延年の舞が催されたことが明らかである。加えて狩馬・御輿御幸があげられている。通称でででん祭りすなわち御輿御幸は、慶安以前から行われていたことは確かであるが、いつごろの発祥かはつまびらかにする資料に欠く」とある。

でででん祭りとは白山三社の御神体(中央：イザナギ・イザナミ・彦火々出見尊、西：大己貴尊、東：天忍穂尊)の神輿を、氏子たちが担いで御幸されるとき、太鼓をデデデン・デデデンと打ち鳴らされることから、俗にこう呼ばれるようになった。

前日の4日に3体の御輿を拝殿に奉じる。まず総代が太鼓を打ち鳴らす。菖蒲・よもぎ・山吹が御輿前に飾られる。「ちまき」も供えられる。

神事は、5日の午後1時頃からはじまる。祝詞奏上・撒饌があつてあと、中高生の巫女4人によって「浦安の舞」が舞われ(写真1)、終わると太鼓が打ち鳴らされ御輿の御幸である。

御輿は東・中・西の順で渡御される。一体8人の輿かき(黒の立烏帽子に白張を着て、地下足袋か布靴をはく)が足早に馳ける。難所の太鼓橋は、勢いをつけ助け役の手を借りて渡りきる(写真2)。近年は人手不足から、高鷲の人も輿かきとして手伝っている。

太鼓橋を渡り、鳥居外の御旅所で祝詞奏上がある。終わって供物の菖蒲を一本指した御神酒壺から、氏子・御輿かきたちが御神酒を手を受けていただき、参拝者も両手でいただき口や頭につけるなどして厄除けや無病息災を祈った。

再び御輿は馳けるようにして参道を登る。太鼓橋・银杏坂では手伝いがはいる。広庭に登った御輿は広庭を右回りに3回ほど回って拝殿の左側から、それぞれの社殿に還御される。社殿前に御輿が納まると御飯と椀が供えられ、神事があり、そのあとに御飯が下げられる。これを拝殿で氏子や参拝者たちに分与され、祭は終わる。



写真1:巫女による「浦安の舞」



写真2:太鼓橋を渡る「御輿渡御」

平成24年度総会開催

市内研修のあと、午後2時50分から高鷲町民センターで、平成24年度の総会が行われた。前年度行事・決算および本年度行事計画と予算、本年度から2年間の役員が報告され、承認された。

